

# 令和八年春の法要

第二十七世本寂上人百五十回忌法要

## 如法念佛作法

本山 興正寺





# 如法念佛作法

## 先行事鐘

七声後の打ち上げにて、結衆華籠を持ち後門に入り中尊後ろにて  
揃つて一揖。

脇壇前・中尊横にて一揖。

中尊前に至り揃つて一揖し、自席前にて起立。

嗣法様入堂後、行事鐘打切り。

余間・外陣行事鐘に合わせて合掌礼拝。

## 次 樂

導師柄香炉を持ち入堂し、中尊後ろ・脇壇前・中尊横にて一揖。  
中尊前に至り一揖。

結衆、導師に合わせ一揖、一同左に向く。

(嗣法様が導師の場合、御門主が入堂し五置台前に起立後  
嗣法様中尊前に進み一揖)

## 次 無言行道 一匝

一匝（中尊前跪礼）して、自席前に至り起立。  
止樂。

導師が数歩下がり、誦讚師「召請讚」発音。

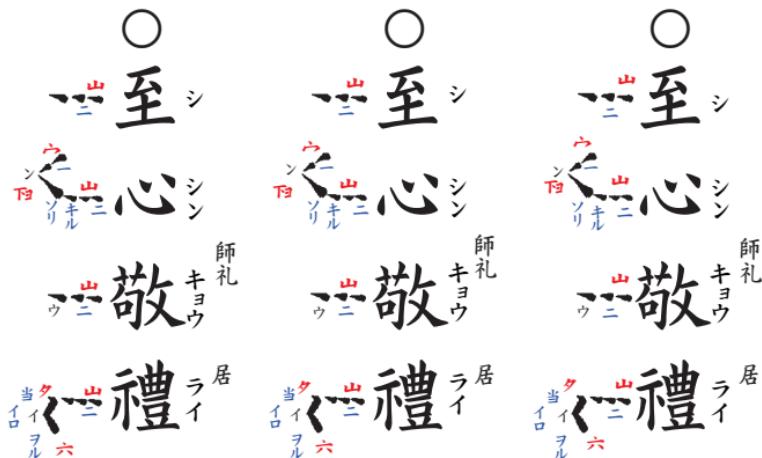
## 次 召請讚 律曲 黃鐘調 定曲

同音で導師登礼盤。

四句目で結衆着座。

終わり磬一丁で結衆蹲踞し合掌。  
（余間・外陣合掌）

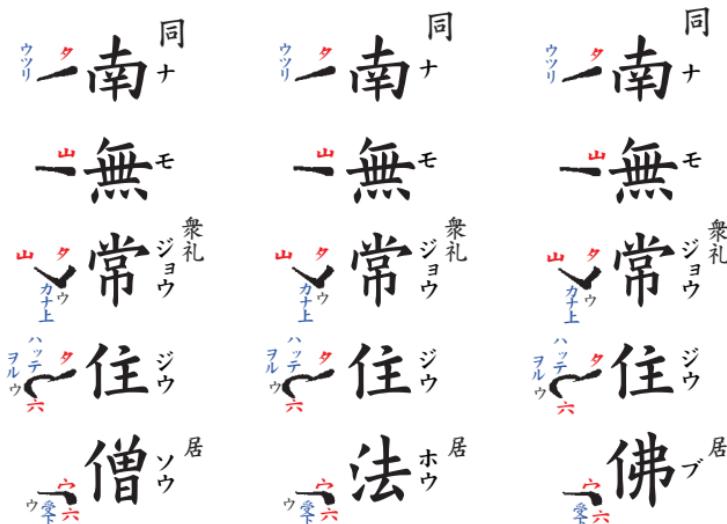
次 至心禮



律曲

黃鐘調

破曲



終わり磬一丁。次鑿一声で導師降礼盤し柄香炉・華籠を持つ。  
結衆、華籠を持ち導師に合わせて板間に降り、内陣一同起立。  
余間華籠を持ち蹲踞、内陣に合わせて起立。

次鑿一声で導師「三奉請」発音。

## 次　三奉請　律曲　黄鐘調　序曲

「散」の字で左前、右前、真後の順に散華する。  
「サ」で右手を上げ、「ン」で静かに落とす。

○奉請十方如來入道場

奉請釋迦如來入道場

○奉請彌陀如來入道場  
ブ ジョウ ユス ダ ニヨ ライ ニウ ドウ ジョウ  
ウツリ  
愛上

The image shows the calligraphy of the three characters '散華樂' (Sanwa-ge). Each character is analyzed with stroke order arrows:

- 散**: Stroke order: 1 (top horizontal), 2 (left vertical), 3 (right vertical), 4 (diagonal down-right).
- 華**: Stroke order: 1 (top horizontal), 2 (left vertical), 3 (right vertical), 4 (diagonal up-right).
- 樂**: Stroke order: 1 (top horizontal), 2 (left vertical), 3 (right vertical), 4 (diagonal up-left).

同  
散華樂  
サン  
ヨウ  
ラク  
左前  
スル  
スル  
スル  
タ  
キル  
山  
二  
六  
ク  
当イロ  
ラル

次盤 一声で誦讃師「召請偈」発音。

次召請偈

律曲 黃鐘調 定曲

同音にて導師・結衆一揖、左に向き行道一匝（中尊前跴礼）。

過現諸佛等靈等  
人天龍鬼中法藏

終わり鑿一声で導師登礼盤、結衆復座。  
次鑿一声で念佛師「八句念佛」発音。

次 八句念佛 甲 律曲 平調 破曲

○ 南無阿彌陀佛

ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ

ナ モ ア ミ ダン ブ

南無阿彌陀佛

ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ

ナ 同 モ ア ミ ダン ブ

一 南無阿彌陀佛

ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ

ナ モ ア ミ ダン ブ

一 南無阿彌陀佛

ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ  
ウツリ

ナ モ ア ミ ダン ブ

終わり磬二丁。

次 廣懺悔 律曲

一越調 破曲

一大	至	○
一菩薩	心	シ
一 一	懺悔	シン
一切	敬	サン
一賢聖	白	ゲ 同キョウ
一及	十	ビヤク
一一	方	ク
一切	諸	ジツ
一 一	佛	ポウ
一 天	一	ショ
一 龍	十	ブル
一 八	二	ジユウ
一部	一部	ブ
一 法	經	キョウ
	諸	ショ

師シ  
 僧ソウ  
 父ブ  
 母モ  
 六ロク  
 親シン  
 眷ケン  
 屬ヅク  
 善ゼン  
 知ヂ  
 識シキ  
 法ホウ  
 界カイ  
 衆シユ  
 生ジョウ

從ジュウ  
 無ム  
 始シ  
 己イ  
 來ライ  
 乃ナイ  
 至シ  
 今コン  
 身ジン  
 空セツ  
 害ガイ  
 一イツ  
 切サイ  
 三サン  
 寶ボウ

界カイ  
 衆シユ  
 生ジョウ  
 現ゲン  
 前ゼン  
 大ダイ  
 衆シュ  
 等トウ  
 證ショウ  
 知チ  
 我ガ  
 發ホツ  
 露ロ  
 懾サン  
 悔ゲ

於	オ	親	シン	不	フ
一	イツ	眷	ケン	可	カ
切	サイ	屬	ゾク	知	チ
三	サン	善	ゼン	數	シユ
寶	ボウ	知	ヂ	偷	チウ
師	シ	識	シキ	盜	トウ
僧	ソウ	法	ホウ	一	イツ
父	ブ	界	カイ	切	サイ
母	モ	衆	シュ	三	サン
六	ロク	生	ジョウ	寶	ボウ
親	シン	物	モツ	師	シ
眷	ケン	不	フ	僧	ソウ
屬	ゾク	可	カ	父	ブ
善	ゼン	知	チ	母	モ
知	ヂ	數	シユ	六	ロク

一 知	チ	一 欺	ゴ	一 識	シキ
一 識	シキ	一 詭	オウ	引 キ 下 タ	法
六 法	ホウ	一 一	イツ	一 界	カイ
一 界	カイ	一 切	サイ	一 衆	シユ
一 衆	シユ	三 三	サン	一 生	ジヨウ
一 生	ジヨウ	一 寶	ボウ	一 上	ジヨウ
一 不	フ	一 師	シ	一 起	キ
一 可	カ	一 僧	ソウ	一 邪	ジャ
一 知	チ	一 父	ブ	一 心	シン
一 數	シユ	一 母	モ	一 不	フ
一 綺	キ	一 六	ロク	一 可	カ
一 語	ゴ	一 親	シン	一 知	チ
一 調	ジョウ	一 卷	ケン	一 數	シユ
一 咳	ル	一 屬	ヅク	一 妄	モウ
一 一	イツ	引 タ 六 六	ゼン	一 語	ゴ

一	イツ	界	カイ	一切	サイ
一切	サイ	衆	シユ	三	サン
三	サン	生	ジヨウ	寶	ボウ
寶	ボウ	不	フ	師	シ
師	シ	可	カ	僧	ソウ
僧	ソウ	知	チ	父	ブ
父	ブ	數	シユ	母	モ
母	モ	惡	アツ	六	ロク
六	ロク	口	ク	親	シン
親	シン	罵	メイ	眷	ケン
眷	ケン	辱	ニク	屬	ゾク
屬	ゾク	誹	ヒ	善	ゼン
善	ゼン	謗	ホウ	知	ヂ
知	ヂ	毀	キ	識	シキ
識	シキ	些	シ	法	ハウ

一 界 カイ	一切 サイ	法界 ホウ
一 衆 シュ	三 宝 サン	一 衆 シュ
一 生 ジョウ	一 寶 ボウ	一 生 ジョウ
一 不 フ	師 シ	一 不 フ
一 可 カ	僧 ソウ	一 可 カ
一 知 チ	父 ブ	一 知 チ
一 數 シュ	母 モ	一 數 シュ
一 或 ワク	六 六 ロク	一 兩 リョウ
一 破 ハ	親 シン	一 舌 ゼツ
一 五 ゴ	眷 ケン	一 鬪 トウ
一 戒 カイ	屬 ゾク	一 亂 ラン
一 八 ハツ	善 ゼン	一 破 ハ
一 戒 カイ	知 デ	一 壞 イハ
一 十 ジツ	識 シキ	一
一 戒 カイ	法 ホウ	

戒 カイ  
等 トウ  
自 ジ  
作 サ  
教 ケウ  
他 タ  
見 ケン  
作 サ  
隨 ズイ  
喜 キ  
不 フ  
可 カ  
知 チ  
數 シユ  
如 ニヨ

戒 カイ  
十 ジュウ  
無 ム  
盡 ジン  
戒 カイ  
乃 ナイ  
至 シ  
一 イツ  
切 サイ  
戒 カイ  
及 ギウ  
一 イツ  
切 サイ  
威 イ  
儀 ギ

十 ジュウ  
善 ゼン  
戒 カイ  
二 ニ  
火 ヒヤク  
百 ヒヤク  
五 ゴ  
十 ジツ  
戒 カイ  
五 ゴ  
百 ヒヤツ  
戒 カイ  
菩 ボ  
薩 サ  
三 サン  
聚 ジユ

一作	サ	數	シユ	是	ゼ
一罪	ザイ	我	ガ	等	トウ
ク引亦	ヤク	等	トウ	衆	シユ
一復	ブ	作	サ	罪	ザイ
一無	ム	罪	ザイ	六	タク
一邊	ヘン	亦	ヤク	如	ニヨ
一方	ホウ	復	ブ	十	ジツ
一便	ベン	無	ム	方	ボウ
無	ム	數	シユ	大	ダイ
邊	ヘン	虛	コ	地	チ
我	ガ	空	クウ	無	ム
等	トウ	無	ム	邊	ヘン
作	サ	邊	ヘン	微	ミ
罪	ザイ	我	ガ	塵	ジン
ク引亦	ヤク	等	トウ	無	ム

一  
邊  
我  
等  
劫  
奪  
殺  
害  
亦  
復  
無  
邊  
三  
寶  
無  
邊

へン  
ガ  
トウ  
コウ  
ダム  
セツ  
ガイ  
ヤク  
ブ  
火ム  
ヘン  
サン  
ボウ  
ム  
ヘン

一  
法  
界  
無  
邊  
我  
等  
作  
罪  
亦  
復  
無  
邊  
衆  
生  
無

ホウ  
カイ  
ム  
ヘン  
ガ  
トウ  
サ  
ザイ  
ヤク  
ブ  
火ム  
ヘン  
シユ  
ジョウ  
ム

一  
復  
無  
邊  
法  
性  
無  
邊  
我  
等  
作  
罪  
亦  
復  
無  
邊

ブ  
火ム  
ヘン  
ホツ  
ショウ  
ム  
ヘン  
ガ  
トウ  
サ  
ザイ  
ヤク  
ブ  
火ム  
ヘン  
ヘン

諸菩薩下至聲聞緣覺所不能知唯佛  
 ショボサダシショウモンエンゲクソノボウジキイフ

邊我等毀犯亦復無邊如是等罪上至  
 ベンガトウガトウキボンヤクブムヘンニヨゼトウザイジョウシ

我等侵損劫奪殺害亦復無邊戒品無  
 ガトウシンソンコウダグセツガイヤクブムカイポンム

一十	法界	與佛
一方	衆生	乃能
三寶	前發	知我罪之多少
法界	露懺悔	今於三寶前
衆生	不	
受我	敢	
懺悔	覆藏	
憶	唯願	
我		
清		

ジツ ホウ ジョウ  
 ポウ カイ シュ  
 サン シュウ ジョウ  
 ボウ ホウ カイ  
 イ シュ ジュ  
 イ ジュ ジュ  
 イ ジュ ジュ  
 イ ジュ ジュ  
 ガ サン サン  
 ガ サン サン  
 ガ サン サン  
 ガ オク ガ  
 ガ ショウ ガ

一屬 ゾク  
 一作 サ  
 一真 シン  
 一善 ゼン  
 一知 チ  
 一識 シキ  
 一同 ドウ  
 一生 ショウ  
 一阿 阿  
 一彌 ミ  
 一陀 ダ  
 一佛 プツ  
 一國 プツ  
 一乃 ナイ  
 一至 シ

一發 ホツ  
 一菩 ボ  
 一提 ダイ  
 一心 シン  
 一慈 ジ  
 一相 ソウ  
 一向 コウ  
 一佛 ブ  
 一眼 デン  
 一相 ソウ  
 一看 カン  
 一菩 ボ  
 一提 ダイ  
 一眷 ケン

一淨 ジョウ  
 一始 シ  
 一從 ジュウ  
 一今 コン  
 一日 ニチ  
 一願 ガン  
 一共 グ  
 一法 ホウ  
 一界 カイ  
 一衆 シュ  
 一生 ジョウ  
 一捨 シャ  
 一邪 ジヤ  
 一歸 キ  
 一正 ショウ

次 悲喜交偈 律曲 黃鐘調 定曲

**一懺悔已至心歸命阿彌陀佛**  
 サン  
 ゲ  
 イ  
 シン  
 キ  
 ミョウ  
 ア  
 ダン  
 ブ

**一成佛如是等罪永斷相續更不敢作**  
 ジョウ  
 プ  
 ニヨ  
 ゼトウ  
 ザイ  
 ヨ  
 ダン  
 ソウ  
 ゾク  
 キョウ  
 フ  
 カン  
 サ

緩唱

終わり磬一丁。次鑿一声で導師降礼盤し柄香炉・華籠を持つ。  
 結衆華籠を持ち導師に合わせて板間に降り、内陣一同起立。  
 次鑿一声で誦讚師「悲喜交偈」発音。

同音にて導師一揖し行道一匝。

四句目で導師登礼盤、結衆復座。



終わり磬一丁で結衆蹲踞し合掌。

次三禮文

律曲 黃鐘調 破曲

終わり磬三丁で結衆復座。

## 次 樂

導師降礼盤し柄香炉を持つ。

結衆、華籠を持ち導師に合わせて板間に降り、内陣一同起立。  
導師・結衆一揖し左に向く。

## 次 無言行道 一匝

一匝（中尊前跪礼）して、自席に至り起立。

導師中尊前にて一揖し退出。

嗣法様中尊前に至り一揖し退出。

（嗣法様が導師の場合、行道一匝後、五疊台前に戻る。）

御門主が中尊前に至り一揖し退出後、嗣法様同様に退出）

嗣法様退出後、結衆上席より入堂時と同様に中尊前に至り揃つて一揖、  
中尊横・脇壇前・中尊後ろにて一揖し退出。

以 上

◇底本について

底本は『円頓山声明集』とし、五音や旋律は蓮澤良専氏の資料を参考にした。八句念佛については本寂上人『報恩講』（本寂上人四十三歳筆）を参考にした。

◇式次第について

如法念佛作法

先、無言行道

先、伽陀（其佛）

先、召請讚（先請、無勝、十方）

先、至心礼

先、三奉請

先、召請偈（道場、全身、願我、慚愧、弘誓、一切、行者）

先、八句念佛 甲

先、八句念佛 乙

先、廣懺悔

先、略懺悔

先、悲喜交偈（悲喜、四十八願、六方、慚愧、願以）

先、三礼文

先、無言行道

以上

## ◇法要の留意点について

今回の法要では前項の次第より一部抜粋して勤める。

内陣出勤者の入退出時の一揖や行道については従来通りの作法を踏襲した。

本来、伽陀以外は導師が全て発音するが、今回は結衆が一部発音するため、発音者は柄香炉を保持する。

散華については、内陣出勤者だけでなく余間出勤者も行うこととした。

令和八年四月

非壳品

編纂  
發行

真宗興正派 勤式研究会  
真宗興正派 宗務所

〒六〇〇一八二六一

京都市下京区堀川通七条上ル  
電話〇七五（三七一）〇〇七五